

事業の名称：若者世代を巻き込んだふるさと祭りの活性化

団 体 名	一宮自主連合会	事 業 費	637,040 円
代 表 者	星野 幸雄	補助金交付額	200,000 円

現状と課題

地区内全体の活動の中では若者が連携する場が少なく、地域活動の主体は以前から関わっているメンバーが多く、変わっていない状況がある。これまで関わってこられたメンバーと、新たな世代との関わりが、これからの地域づくりの中で課題となっている。

事業の目的

- ・現在の実行メンバーと、若い世代の交流の場を設け、顔が分かり話ができる関係づくりを行う。
- ・地区外からの転入者や、もともと地元にいる若い人同士が関わるきっかけづくり
- ・老若男女が集い、地域の人や取組みを知るきっかけをつくり、より地域への愛着を深める

実 施 内 容

◇実施状況

令和6年11月24日に「第33回一宮ふるさと祭り」を開催。約500人が来場し、非常に賑わった。芸能発表では、地元住民が多く参加し、大いに盛り上がった。同日開催した駅伝競走の選手は、中学生から60代までの約70名、スタッフも40代から70代の50名と幅広い年代が参加。また、いちみや食堂の出店の中には、中学生ボランティアや、若者世代が多数参加しており、多世代が積極的にお祭りを盛り上げた。他地区からの参加もあり、地区を越えた交流の場となった。組織役員の中には、次期担い手となる若い世代が選出されており、お祭りの打ち合わせ等にも参加した。

◇成果と課題

若い世代が多く参画することにより、活気づいたお祭りとなり、来場者が昨年度比150人増となった。飲食の出店を増やすことで、来場者の満足度が向上した。更に、学生が出店のボランティアとしてお祭りに参加し、地域と関わる機会をつくることができた。多世代、他地区、多くの人が交流できる場となり、とても意義のある事業となった。

事務局主体のお祭りであり、例年同じ内容になりがちである。打ち合わせ等、若い世代が運営にもっと携わり、新しいアイデアと取り込むことも必要であると感じた。お祭りをきっかけに、運動会や防災の取組み等、多くの若い世代が積極的に参加してもらえよう、より関係を深めていく。

